

問題 No.73

キャッシュフロー計算書の作成(1)

社のX1年度末貸借対照表とX2年度末貸借対照表およびX2年度損益計算書は、以下のとおりである。

X1年度末 貸借対照表			
現金預金	600	買掛金	3,000
売掛金	3,200	未払利息	200
商品	2,800	資本金	6,000
建物	4,200	資本剰余金	4,000
土地	4,000	利益剰余金	1,600
	<u>14,800</u>		<u>14,800</u>

X2年度末 貸借対照表			
現金預金	2,000	買掛金	2,000
売掛金	4,000	未払利息	300
商品	2,400	資本金	6,000
建物	3,500	資本剰余金	4,000
土地	4,000	利益剰余金	3,600
	<u>15,900</u>		<u>15,900</u>

X2年度 損益計算書	
売上高	25,000
売上原価	20,000
減価償却費	700
その他費用	2,300
当期純利益	<u>2,000</u>

これらの財務諸表と以下の前提条件に基づいて、20X2年度のキャッシュ・フロー計算書を間接法により以下のように作成した。

- 前提条件：(1) X2年度における税金と配当金および役員賞与の支払いはない。
 (2) X2年度における投資活動によるキャッシュ・フローはない。
 (3) X2年度における財務活動によるキャッシュ・フローはない。

X2年度 キャッシュ・フロー計算書	
当期純利益	2,000
()	()
()	()
商品の減少	400
買掛金の減少	1,000
()	()
現金及び現金同等物の増減額	<u>***</u>

問1 に記入される項目と金額の組み合わせはどれですか。

- A 売上原価 20,000
 B 売上原価 20,000
 C 減価償却費 700
 D 減価償却費 700

問2 に記入される項目と金額の組み合わせはどれですか。

- A 売掛金の増加 800
 B 売掛金の増加 800
 C 売掛金の減少 800
 D 売掛金の減少 800

問3 に記入される項目と金額の組み合わせはどれですか。

- A 未払利息の増加 100
 B 未払利息の増加 100
 C その他費用 2,300
 D その他費用 2,300

問題 No.73	【解答及び解説】
----------	----------

(答) : 問1 C 問2 B 問3 A

《解説》

本問は、間接法によるキャッシュフロー計算書の完成の問題である。間接法によるキャッシュフロー計算書のひな型は、次のとおりである。よって、ひな型より各問の問題を解くことができる。

(間接法)キャッシュフロー計算書

営業活動によるキャッシュフロー

1. 税金等調整前当期純利益	***	
2. 非資金取引の修正		
減価償却費	(+)***	← (問1)
貸倒引当金の増加額	(+)***	
3. 資産及び負債の増減		
売上債権の増加額	(-)***	← (問2)
棚卸資産の減少額	(+)***	
仕入債務の減少額	(-)***	
⋮		
4. その他の修正		
未払費用の増加	(+)***	← (問3)
未払費用の減少	(-)***	
前払費用の増加	(-)***	
前払費用の減少	(+)***	

問1 に記入される項目は、問題の選択肢によると売上原価と減価償却費となっているが、間接法においては売上原価は記入されない。よって、減価償却費が記入される。金額はPLに計上された700である。減価償却費は非資金費用であるからキャッシュフローの増加要因(+)となる。

よって、本問の正解肢は(C)である。

問2 に記入される項目は、ひな型より「主たる営業活動に伴う資産・負債の増減額」である。キャッシュフロー計算書には「商品(棚卸資産)の増減」と「買掛金(仕入債務)の増減」があるので、本問では「売上債権(本問は売掛金しかない)の増減」ということになる。

売掛金の期末残高は期首残高より800(=4,000-3,200)増加している。よって、増加した分だけキャッシュフローが未収(減少)(-)となっている。

よって、本問の正解肢は(B)である。

問3 に記入される項目は、キャッシュフロー計算書と問題の選択肢より経過勘定ということになる。本問においては、貸借対照表より未払利息a/cしかない。未払利息の当期末残高は100(=300-200)増加している。未払分が増加しているのでキャッシュフローは増加(+)していることになる。

よって、本問の正解肢は(A)である。